

# 安曇野の魅力を発信

岡本由紀子さん(37歳・穂高有明)



安曇野にある工房などを巡りながら、ものづくりの現場や人々と触れ合うイベント「安曇野スタイル2006」を昨年11月に開いた「安曇野スタイルネットワーク」。ペンションを経営しながらその代表を務める岡本さんに、この活動に対する思いや今後の展望を伺いました。

—安曇野スタイルネットワークを始めたきっかけは？

ネットワークを発足したのは2004年2月です。当時、うちのペンションの宿泊者数をみても、安曇野の観光客が減っていると感じていました。ほかの飲食店や美術館の皆さんもそう感じていたようです。景気が悪いこともありましたが、小布施町や大分県の湯布院など客足が衰えない観光地もありました。魅力を感じる場所であれば、皆さん足を運んでくださるんですよ。そこで、安曇野も魅力を感じられる場所になれば人が集まるのではないかと、ここに暮らしていて感じる「安曇野の本当の魅力」をもっと多くの人に知ってもらい、「行きたい」と感じてもらえる場所にならないかと考えるようになりました。この思いを友人などに話したところ共感してくれる仲間が集まり、「安曇野スタイルネットワーク」

ントは、最初の地図ができたとき、古い天蚕てんさん農家の家屋をお借りして、安曇野で創作活動をしている作家さんの作品を集めた展示販売会を開きました。昨年からは、新しい地図に掲載した工房などの協力で、製作現場を見学しながら安曇野を巡ることができるよう、新しいスタイルのイベントを試みています。

—安曇野スタイルの活動が注目を集めています。今後の展望をお聞かせください。

「安曇野スタイル2006」が盛況に終わったことで、私たちを「クラフトやアートのイベントをする団体」だと思われ人も多のですが、イベントはあくまでもきっかけであり、目的ではありません。自然の中で四季折々の風景に触れながら穏やかに暮らしている、そういう日々の生活ぶりが、ここに住む人たちの人柄やクラフト作品にも現れているのだと思います。道端で出会ったおばさんが優しく話しかけたとか、枯れ葉で焼いた焼き芋がおいしかったとか、私たちの普段の生活の中に安曇野の魅力があるのだと思います。そういった「本当の安曇野の魅力」を一人でも多くの人に知っていただき、安曇野に足を運んでもらえたらうれしいです。

## 一人でも多くの人に知っていただきたくて、私たちの普段の生活の中にある安曇野の魅力を

イベントは、あくまでも安曇野に触れるきっかけ。

を立ち上げました。

—これまでどんな活動をされてきたのですか？

当初は、具体的に何ができるか全く考えていませんでした。まず安曇野にどんな人たちがいるんだろうと、知り合いの作家さん、さらにそこで紹介していただいた工房やお店と



アートとクラフトに的を絞った新しいバージョンの地図。この地図1枚が安曇野巡りを一層楽しくしてくれる。

いう具合にいろいろな場所を訪ねました。活動を始めて5カ月後の2004年7月、この出会いを何か形にしたいと、それまでに訪ねた86の工房や農園などを地図にまとめました。翌年には、クラフト関連のお店をまとめ掲載件数も増やした新しいバージョンの地図も作りしました。「ものづくり」という観点からすれば、本当は農家なども入れたかったのですが、数が増え1枚に収まりきらず、それが残念でした。ネットワークとして初めてのイベ